



愛知県の
産地の現状

愛知県のイチゴの作付面積は261ha、生産量は9,400tである。共選出荷における愛知県育成品種である「ゆめのか」の栽培面積割合は20%で、残りの80%は県外育成品種が占めている（R2）。愛知県産イチゴのブランド力を向上させ、収量が多く、果実品質に優れる品種が求められている。

愛知県産イチゴのブランド力を向上させ、収量が多く、果実品質に優れる品種が求められている。



農総試での
関連研究成果

共同研究により果実が大きく、食味もよい、果食の赤色も鮮やかなイチゴ品種を作出した。



イチゴ新品種「愛経4号」



解決したい
困りごと

イチゴの優良系統を選抜するには、一次選抜時からより多くの株の複数の形質（大きさ＝大果性・草勢、数量＝花房当たりの着果数・収量、色＝果皮色・葉色、果実品質＝糖度・硬度・光沢など）を評価することが必要である。

これらの形質を調査するには多大な労力を必要とするため、一次選抜の供試株数の制限要因になっている。

イチゴの選抜では、複数の形質を達観で評価していることから、年度ごとの評価が定量的になっていない



解決案

省力・効率的な撮影装置による優良系統の形質評価

優良品種の早期開発のため、優良系統の選抜において効率的かつ高精度な形質評価を行えるよう、ドローンに搭載したカメラやタイムラプスカメラで撮影した画像の解析、画像認識による個体選別技術などを活用し、多くの株について複数の形質を省力的に数値評価できる手法を確立したい

担当者：園芸研究部・野菜研究室・松浦元樹、小川理恵